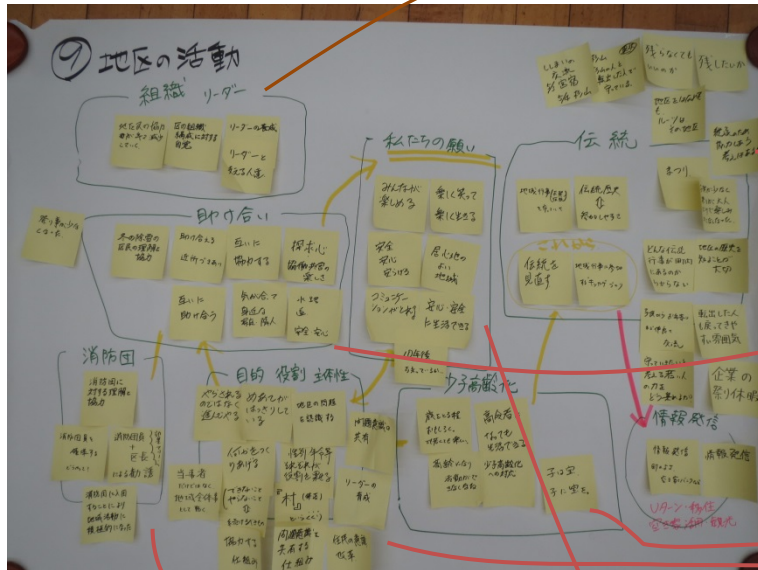


テーマ：地区の活動



組織 リーダー

- ・地区民の協力 年々減少
- ・区の組織編制に対する自覚
- ・リーダーと支える人達

伝統

- ・地域行事を守っていく
- ・伝統を見直す
- ・子供減少 大人だけの祭 楽しくない
- ・地域行事に参加するきっかけづくり

助け合い

- ・互いに協力する 近所付き合い
- ・冬の除雪の区民の理解と協力
- ・地域行事に参加するきっかけづくり
- ・水路 道 維持管理 安心安全

少子高齢化

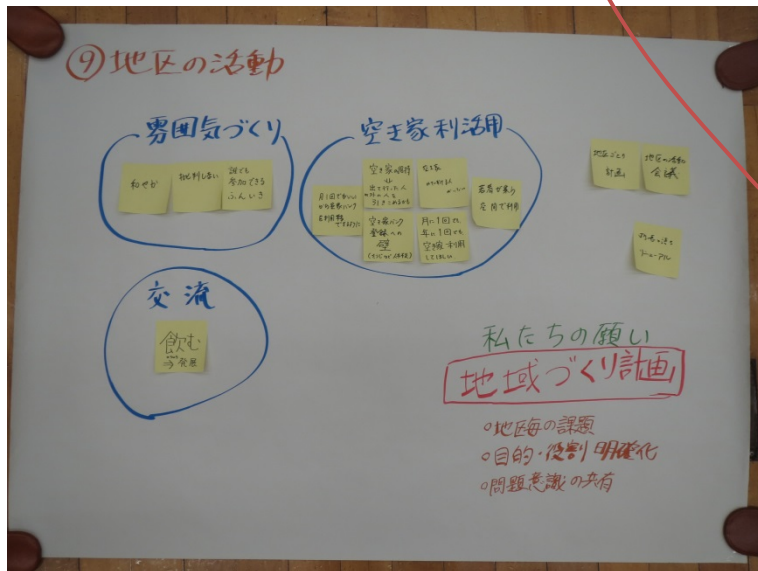
- ・年をとるほど面白い
- ・若くても面白い
- ・高齢者になり活動できなくなる
- ・高齢者になっても生活できる
- ・子は宝 子にも宝を

消防団

- ・団員の確保
- ・活動に対する理解協力
- ・団員と区長の勧誘
- ・入団して地域活動に積極的になる

目的 役割 主体性

- ・地区の問題を認識する 共有
- ・当事者だけでなく地域全体事
- ・年齢、性別等それぞれが役割を果たす
- ・目当てがはっきりしている
- ・出来ないこと
- ・やらないこと ⇔ 続けるべきもの



私たちの願い

- ・居心地の良い地域
- ・みんなが楽しめる
- ・楽しく笑って 楽しく生きる
- ・安全、安心、安らぎ
- ・コミュニケーション

叶え、解決していくための問題、解題、状況は55集落毎に違う
⇒ それぞれに考える必要がある

テーマ：⑨地区の活動

コンセプト

「10年後、どの地域もみんなが楽しく安心して暮らせるまち」

- ・地域の近所付き合いが広がっている
- ・地域の共通の目的が持たれている
- ・地域活動が伝承され、継続されている
- ・雪、災害等から生活が守られている

現状 強み

- ・どの地域も団塊の世代あたりが多く残っており、つながりが強い（＝共通の意識を持っている人が多い）

60～69歳の人口割合 18% 1,306人/7,189人（町全体）

20～59歳の人口割合 31% 2,209人/7,189人（町全体）

（住民基本台帳 H29. 4. 1 現在）

- ・団塊の世代の人たちは、得て前な人が多い
（青年団、消防団、多業種による豊かな経験）

弱み

- ・地域の組織での活動、参加者が少なくなっている
（婦人会、長寿クラブ、消防団、そして区の人足等
＝つながりが薄くなる、後継者がいなくなる）
- ・高齢者のみの世帯の増加している
（雪対策、防災の新たな仕組みづくり）
- ・若い人は区の行事は親任せ

将来像「地域の人たちによる主体性のある地域活動が行われる」

- ・問題、課題、目的を共有し、行動する
- ・地域（各世代）での役割を認識し、行動する
- ・地域活動の伝承から、人材が育成され、次の行動へ繋がる
- ・地域の人達の共助、地域活動が行われ、雪対策防災等の生活基盤が守られる

テーマ：⑨地区の活動

活動アイデア

タイトル

「地域の守りと攻め、地域の位置付けを明確にする地域づくり計画を策定する」

内容

1 地域づくり計画の策定

ワークショップの手法により、地域づくり計画を策定する

- ・地域の現状把握、問題、課題、アイデアの共有
- ・地域、区民、行政、事業所、関係機関の役割の認識と共有

2 地域づくり計画の実行

計画の実行のための活動を行っていく

時期

1 地域づくり計画の策定 ～平成 32 年度まで

2 地域づくり計画の実行 計画策定時～平成 39 年

役割

区 民：計画の策定、実行の主体

行 政：計画の策定、実行（計画に基づく）支援
手法、資金、情報、調整

関係者：計画実行（計画に基づく）支援、担い手

隣接区：事業共同体

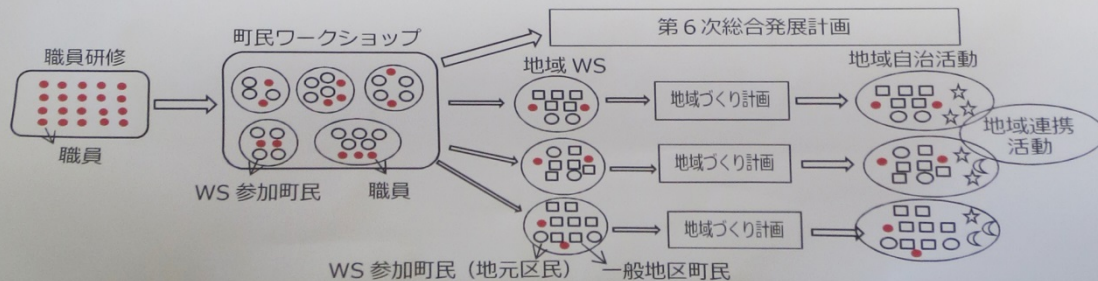
転出者・企業・NPO：担い手

キーポイント

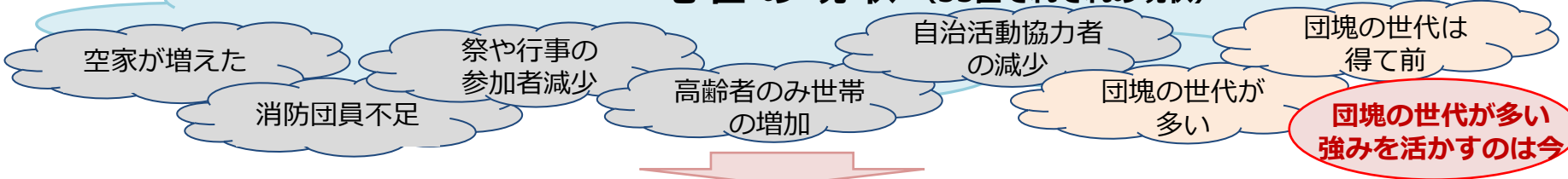
地域は転換期にある。対応していくには学びが必要。

WS を共通の学びの場として、地域の学びと活動につなげる

ワークショップ＝学びの場⇒町民 WS の学びを活かす



地区の現状 (55区それぞれの現状)

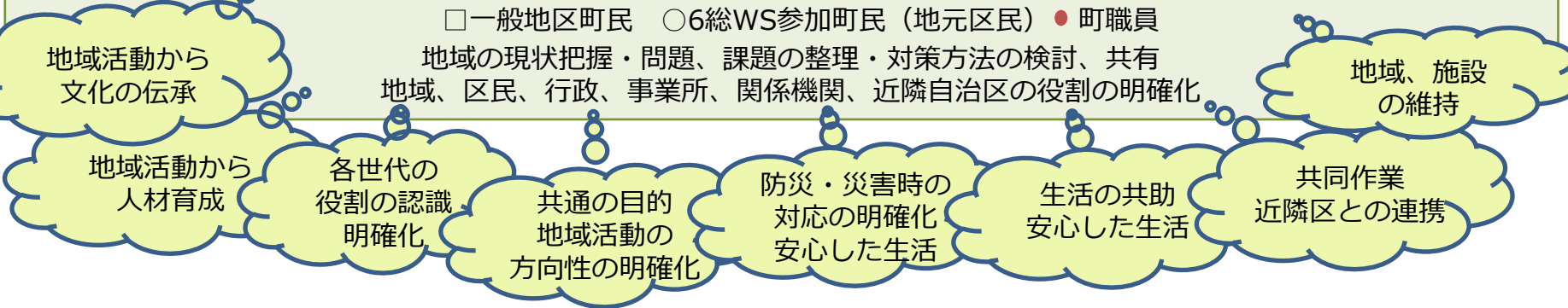


コンセプト 「10年後、どの地域もみんなが楽しく安心して暮らせるまち」

活動アイデア 「地域の守りと攻め、地域の位置付けを明確にする」 地域づくり計画策定

手段 地域ワークショップ

□一般地区町民 ○6総WS参加町民 (地元区民) ●町職員
地域の現状把握・問題、課題の整理・対策方法の検討、共有
地域、区民、行政、事業所、関係機関、近隣自治区の役割の明確化



課題解決、地域が変わるためには**学び**が必要。 **ワークショップ = 学びの場 ⇒ 町民WSの学びを活かす**

